

労働条件の改善、組織の拡大に全力

= 平和と民主主義を守る取り組みも確認 =



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
発行者 沢田 光 広
編集者 横内 俊 博
TEL 019-622-5021
メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2020.11.10
第1541号

拡大キャッチコピー

「1人で悩まず 国労へ相談。 みんなで楽しく がんばろう!」

地方本部は、第76回定期地方大会を10月18日に盛岡市のコミュニケーションギャラリー・リリオで開催した。新型コロナウイルス感染症問題もあり、来賓は出席を要せずメッセージ対応とし、最小限の参加者とした。

大会では、会社施策の問題点、エルダー社員問題、出向先や関連会社労働者などを含めた労働条件の改善問題、地域分会結成など組織体制の問題と合わせての組織強化・拡大などについて10人の代議員(特別代議員含む)が発言し議論が行われた。

そして向かう一年間は、労組未加入者の組織化を含めた組織強化・拡大、正常な労使関係の確立、労働条件の改善と安全・安定輸送の確立、地方交通線の維持確保、雇用の確保、反差別、脱原発の運動を強化し平和と民主主義を守る立場からさまざまな政治課題の取り組みを確認した。全組合員で運動を展開していく。

「川田琢治、浮中明」議長団で進行

大会は、9時40分に佐々木 政治執行副委員長の開会挨拶で始まり、代議員25人中24人の出席と地方本部役員の出席(沖田司男会計監査員欠席)を確認し大会が成立していることを宣言。大会議長に川田 琢治代議員(青森施設分会)、副議長に浮中明代議員(盛岡電気分会)を選出。代表し川田議長から就任挨拶を受け進められた。



=コロナ禍の中50人の参加で開催された=

第76回定期地方大会 / リリオ

最初に沢田光広執行委員長が地方執行委員会を代表し挨拶(別掲)。その後、横内俊博執行委員がメッセージの紹介と大会日程を説明。及川孝介と大会日程を説明。及川孝介と大会日程を説明。及川孝介と大会日程を説明。

(花輪線地域分会)からの地方委員11人の告示後、菊池書記長が2019年度の経過報告と2020年度の運動方針(案)の提案を行い、横内執行委員から修正動議の取り扱

いの説明が行われた。引き続き、巖岩哲彦執行副委員長からの2019年度決算報告が提案・承認され、佐々木力特別執行委員が盛岡国労会館の事業報告。佐々木執行副委員長が組織検討委員会答申を行い承認され昼食休憩に入った。

昼食後、方針の討論に入り、エルダー社員問題、分会組織体制、会社施策問題などについて10人の代議員が発言(要旨別掲)、執行部の中間答弁(裏面掲載)と菊池書記長の集約答弁(裏面掲載)が行われ、拍手で方針が原案通り確認された。次に巖岩執行副委員長

の挨拶後、大目録をむかえ地方委員の選出、機関紙コンクールの表彰と進み、大会宣言を横内執行委員が読み上げ提案採択。浮中明副議長が退任挨拶。巖岩執行副委員長が議長団の労をねぎらい、閉会の挨拶。最後に沢田執行委員長の音頭で閉会式を三唱し閉会した。

多くの団体からのメッセージ届く

【寄せられたメッセージ】
平和環境岩手県センター、岩手県交通運輸産業労働組合協議会、社会民主党岩手県連合、日本共産党岩手県委員会、東北労働金庫岩手県本部、こくみん共済COOP岩手推進

本部、一般財団法人ハピネス共済会、自治労岩手県本部、岩手県教職員組合、岩手県高等学校教職員組合、岩手県交通労働組合、全自交岩手県地方本部、全水道盛岡水道労働組合、林野労組岩手県協議会、全農林労働組合岩手県協議会

大する政策が続くことは必至である。日本学術会議の推薦人名簿から6人を排除するという暴挙にみられるように、菅政権も安倍政権同様、強権政治である。私たちは引き続き、平和と民主主義、憲法を守り、安心して暮らせる社会の実現を目指す政治勢力の拡大を取り組んでいく。

JR東日本は2020年度の連結通期予想を4180億円の赤字と発表した。この困難な情勢を克服するため「変革2027」実現のスピードアップを宣言し、今後、新技術を取り入れ、各系統の効率化を矢張り早く展開するとしている。この施策に対して労働組合としてどのように対

応していくのかが問われている。貨物会社では「新人事・賃金」制度が導入された。管理者の目を気にし、職場の社員一人ひとりが疑心暗鬼に陥っているなど職場の雰囲気が一変した。私たちは、職場における問題を掘り起こし、課題を明らかにして、改善に取り組んでいかなければならぬ。

会社施策の急激な実施や変更は、労働者に多くの不安や不満を抱かせている。そこが組織拡大への大きな足掛かりである。東日本本部においては、グループ会社に向く20代・30代の青年や女性が、労働組合の必要性を訴え、加入へと結び付けてきている。

私たちは7月11日に第14回組織強化拡大対策会議を開催した。会議には、組合未加入

社員との交流を行っている組合員が出席し、これまでの取り組みを報告してもらい、お互いが学びあった。若い社員が抱えている「会社施策への不安と不満」に、寄り添い、一緒に悩み、解消に向けお互いに考えあうことを大切にしましょう。国労に加入して下さい」という強いメッセージを発信し続けることが大切である。

コロナ禍という状況下、私たちの運動は制約を余儀なくされているが、多岐にわたる課題を取り組む運動を止めるわけにはいかない。「2020年度運動方針」の確立と、国労盛岡地方本部に結集する組合員・家族が「丸」となると組織強化をはじめとする闘いに全力をあげていこう。

10月3日、駅連合・工務分会を統合して北上域分会が結成された。今後、運動を新たに取り組んでいきたい。

エルダー雇用について、ユニオン釜石を廃止し遠野に数人配置という噂もある。再雇用先が先細りになり、エルダーを選択しない人も出てくることになるのでは。再雇用先確保の取り組みをお願いしたい。

組織も減らなくなってきている。若い社員へ声掛けを行い、組織拡大に取り組んでいきたい。

小松成二特別代議員 (一関地区協議会)
▽コロナ関係で延びていたが、運輸・工務分会を統合して一関地域分会を10月9日に結成した。陸前高田・気仙沼地区も含まれる。地域共闘の進め方を指導して欲しい。

沢田委員長あいさつ (要旨)



新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、景気をより悪化させ、働く者たちにも深刻な影響を及ぼしている。一方富裕層はますます富を上積みし、貧困と格差は広がっている。そのような情勢下の9月16日、第99代総理大臣に菅義偉氏が指名された。安倍政権を継承すると明言しており、アメリカと一体となつての戦争する国づくり、大企業や富裕層を優遇し格差と貧困を拡大

長が2020年度予算(案)を提案し承認され、組織検討委員会の設置も確認、ストライキ権確立一票投票が行われた。ストライキ権は、出席代議員24人全員の賛成で確立された。

大会も大詰めをむかえ地方委員の選出、機関紙コンクール表彰と進み、大会宣言を横内執行委員が読み上げ提案採択。浮中明副議長が退任挨拶。巖岩執行副委員長が議長団の労をねぎらい、閉会の挨拶。最後に沢田執行委員長の音頭で閉会式を三唱し閉会した。

方針の討論では、10人の代議員(特別代議員含む)が発言した。要旨は次の通り。

小原典昭代議員 (青森駅連合分会)
▽「新たなジョブローテーション」で乗務員職場から駅に発令されている。現場にお

東北労働金庫労働組合岩手県支部、全労済労働組合北海道、全労働者労働組合岩手県連合会、鉄道退職者の会盛岡地方連合会、国労関係(東日本本部、東北協議会、秋田・仙台・水戸・新潟・高崎・長野・東京・千葉の各地方本部、家族会盛岡地方連合会)

▽青森運輸区の廃止に伴い5人の組合員が秋田支社へ異動。5人とも青森市在住で、再雇用先は青森地区を希望している。青森へ戻る取り組みをお願いしたい。

◎中村祐幸代議員 (北上工務分会) (裏面へ続く)

J R 東日本は、コロナの影響により、今年度の最終的な損益が4180億の赤字になると発表した。JR各社も中間決算を発表しており、このペースで1年間積み上げていけば、JR各社の合計の赤字が、およそ1兆3千億円と予想される。国鉄最終年の1986年の単年度の赤字が1兆3818億円。現在と赤字額はほぼ同じだが、当時は、借金の利息が1兆1253億円であり、利子を除けば赤字が565億円に縮小される。旅客収入は、1986年度、3兆269億円。テレワークが浸透している今年度は、2兆円台にとどまると言われている。現在の状況は、1986年度より、かなり深刻な状況であると言える。このような中、JR東日本の幹部は、「来年度は、かならず黒字にする」と表明した。収入が見込めない中、黒字にするには人件費にも手を付けざるを得ないだろう。一方、JR東日本本社の経営状況が深刻にもかかわらず、職場はどこか他人事無関心のようにも見える。背景には、組合の組織率の低下が影響しており、会社以外の情報がなく、ことごとく33年前の分割民営化闘争の時、私達は、毎日どこかに集まり、学習や交流会などを行い、学びがあった。時には、仲間と酒を酌み交わし、夜遅くまで議論した。そんな経験のおかげで、今があると思っ

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

ていこう

〔表面から続く〕
 △矢幅駅にはリビットのプロパー社員6人いるが、賃金をはじめ労働条件は決して高くない。改善に向け、我々としても運動を作っていくことが大切だ。

▽「日勤」主体のエルダー社員もいる。モチベーションが下がるだけに、培った知識・技能を發揮させる取り組みを。盛岡地区も地域分会に向け協議を重ねている。地域分会化で役員への負担が大きくなるのではないかと懸念も、風通しの良い分会作りが大切だ。

◎殿村祝詞代議員 (八戸運輸区分会)
 △「新たなジョブローテーション」で支社兼務発令が多くなっている。結果、職場では休日出勤も発生している。

▽若い社員や他労組の若い人の話の聞き取りが出来ていない。声をかけていきたい。



小原典昭代議員 (青森駅連合分会)



工藤慎一特別代議員 (北上地区協議会)



佐藤徳彦特別代議員 (電気協議会)

▽エルダー配属にあたっては通勤を考慮し、地元配置をお願いしたい。

◎奥山力特別代議員 (八戸地区協議会)
 △八戸地区でも地域分会結成を検討している。旧分会を班としてしっかり位置づけての取り組みが大切と考えている。11月中旬に役員会を開き、来年の年初めに地域分会結成を考えている。

◎工藤慎一特別代議員 (北上地区協議会)
 △10月3日に北上地域分会を結成した。職場、班活動を大切に運動進めて行きたい。

▽自分はユニオンに出向し、そのままエルダー発令になった。プロパーも8人いるが仕事も忙しく、年休を年6〜7日しか取れていない。ユニオン、仙建工業の問題だけでなく、人を増やし、働きやすい職場を求める取り組みをお願いしたい。

◎工藤則彦代議員 (花輪線地域分会)
 △出向先会社で夜勤増りに交通事故が発生している。

▽地本工務協の役員をしていく。エルダー発令や退職に伴う役員体制、引継ぎに悩んでいる。

◎佐藤徳彦特別代議員 (電気協議会)
 △電気の新幹線職場が作られたが、事故や問題点が多く出ている。ルールと内容がわからない管理者が多い。広域化で、コロナ禍によって東京から帰れない社員もいる。社友会も5月にでき、若い社員が加入している。

▽Webで職場代表者選挙の実施。職場における投票結果の全体化を求める。

▽電気協議会の議長をやっている。今後の職協のあり方について考え方を示して欲しい。

執行部の旨 中間答弁 要

現場長・管理者とのコミュニケーションの取り組みを大切にしたい。

○職場での若い社員との関わりはできるようなっていると思う。グループ会社を含め、多くの職場でさまざまな取り組みが行われていることが報告されている。コロナ禍で厳しい状況ではあるが、知恵を出し合い進めていこう。

○北上、一関と地域分会が結成された。職域分会が基本と考えるが、現実的には難しいだけに、地域分会化を選択。盛岡・八戸・青森についても取り組みを進めて行くことになるが、分会・班・職場で議論を深め、結成後も分会内での「集まる場」作りを進めて欲しい。また、地域分会化の推進とそれに伴う地域共闘は支部の指導も重要である。

○「新たなジョブローテーション」は希望する社員のモチベーションを活かす制度。少なくとも労務対策の一環としての施策としてはならない。職場における課題は職場で取り組み、そこで解決しなければ上部機関への流れが基本。

現場長・管理者とのコミュニケーションの取り組みを大切にしたい。

○年末手当の獲得に向け、東日本本部の指示に基づき、地方でも支社に「要請書」の取り組みを行っていく。

○JR東日本における「休業指示」は東日本本部業務連絡報・ダイジェスト版等に詳細が記載されている。勤務指定段階における会社の指定であり、任意に求めるものではない。国労としては、「公平・公正」な扱いを求めている。

○再雇用制度は、法的には「再雇用を希望する労働者を雇用する制度の構築」等を使用者に義務付けしているもの。法の趣旨に則り、再雇用者が働き甲斐を持つ中で働き続けられるよう求めていきたい。

特に、秋田支社へ異動となった組合員については、本人希望の実現に向け、秋田地方本部との連携を強めていく。

2020年度 地方委員 11人選出

2020年度地方委員に次の11人が選出された。

▽盛岡支部7人
 近藤 信博 (盛岡駅連合分会)

▽出向先の課題について、施策による出向だけに、JRに責任を持たせる意味でJRを通じてグループ会社へ指導を求めた。引き続きその立場で取り組み、出向先の実態について窓口へ伝えたい。

○職能別協議会の役員体制は大きな課題であるが、56・57歳の組合員と一緒に作っていく必要がある。また、職協組織の展望については上部機関とも相談をする中から検討していきたい。

西野 利行 (盛岡運輸区分会)
 浮中 明 (盛岡電気分会)
 石川 博勝 (盛岡貨物分会)
 上村 義光 (二戸地域分会)
 中村 祐幸 (北上地域分会)
 千葉 明告 (一関地域分会)
 △青森支部4人

小原 典昭 (青森駅連合分会)
 川田 琢治 (青森護国分会)
 横濱 幸徳 (野辺地地域分会)
 加藤 寿 (八戸貨物分会)

○職能別協議会の役員体制は大きな課題であるが、56・57歳の組合員と一緒に作っていく必要がある。また、職協組織の展望については上部機関とも相談をする中から検討していきたい。

○新幹線統括本部関係は直接交渉できないが、実態や問題点について報告を。東日本本部と連携し、取り組んで行く。

第1回執行委員会にて任務分担確認

大会後、地方執行委員会は、第1回執行委員会を開催し次の通り任務分担を確認した。

【執行体制及び任務分担】
 ◎執行委員長
 石田 春夫 (書記)
 高瀬 貴弘 (書記)
 菊池 要悦 (幹事)
 及川 孝
 横内 俊博
 高瀬 貴弘 (書記)
 菊池 要悦 (幹事)
 佐々木政志
 及川 孝
 横内 俊博
 巽岩 哲彦 (補欠)
 横内 俊博 (補欠)
 石田 春夫 (補欠)
 菊池 要悦 (幹事)
 佐々木政志 (補欠)
 巽岩 哲彦 (補欠)
 及川 孝 (補欠)

◎執行委員
 及川 孝 (盛岡車扱七)
 (組織部長、青年対策部長、業務部長、家族会担当)
 横内 俊博 (盛岡七未投七)
 (教宣部長、企画部長、組織部長)
 ◎執行委員
 及川 孝 (盛岡車扱七)
 (組織部長、青年対策部長、業務部長、家族会担当)
 横内 俊博 (盛岡七未投七)
 (教宣部長、企画部長、組織部長)

◎特別執行委員
 佐々木研司 (E・V・T・矢田駅)
 (盛岡支部担当)
 石田 春夫 (盛岡電力青森七)
 (青森支部担当)
 小泉 正直 (盛岡幹線運輸区)
 (青森支部担当、新幹線統括本部担当)
 斎藤 庄司 (元・盛岡運輸区)
 (国労会館盛岡地方部長)
 佐々木 力 (元・盛岡保七)
 (国労会館盛岡地方事務長)

新型コロナウイルス禍で見えた職場課題 労働組合の必要性を確信する

菊池書記長 集約(要旨)



菊池要悦 (盛岡支部)

【労働条件改善・権利確立、安全・安定の輸送確立の闘い】
 JR東日本においては「時間軸」「スピード感」を強調し、矢継ぎ早に施策の提案・

実施をしている。その結果、職場のあり方、社員の働き方が大きく変化している。JR貨物においては、昨年4月の「新人事・賃金制度」導入で労働者間の競争・分断が煽られている。制度が持つ課題を明らかにする中で、公平・公正な運用を求め続けていかなくてはならない。「安全・安定」輸送確立のためにも、労組未加入者、他労組組合員を

も巻き込み、「仕事総点検運動」「安全総点検運動」を取り組み、会社施策を検証する中から、課題解決に向け職協・分会と連携を強めていく。

【組織強化・拡大の闘い】
 JR東日本では、東労組互解で社員の7割以上が労組未加入の状況にある。業務量の増加や社員管理が厳まる中で、自身の不平・不満・不安を国労分会役員に託す若手社員も

な意見交換ができた。全組合員が「当事者意識」を持つ中で、「もう一人の青年、もう一人の女性」の拡大に全力を挙げよう。地方本部はその先頭に立つ決意である。

【平和と民主主義を守る闘い】
 9月16日、菅前官房長官が新たな首相に選出された。菅首相は「安倍政治」を継承するとしている。立憲野党と市民の連携を強める中で、改憲発議をさせない取り組みを強めていかなければならない。

【最後に】
 組織の現状は大変厳しいものがある。しかし、展望がないわけではない。新型コロナウイルス禍で見えてきた職場の課題を取り組むことにより、必ずや労働組合の必要性に気づいてくれると確信する。それを早めるためには、私たち一人ひとりの運動・取り組みに掛かっている。「遊び心」を持ち、しなやかに、そして大胆に運動を進めよう。

◎会計監査員
 小笠原勝豊 (二戸駅)
 淡路 明則 (盛岡七未投七)
 沖田 司男 (八戸幹線保七派)
 【会社関係の任務分担】
 △盛岡支社関係
 (経営協議会委員)
 沢田 光広 (代表)
 菊池 要悦 (幹事)
 佐々木政志
 巽岩 哲彦
 及川 孝
 横内 俊博

【東北協議会関係の任務分担】
 議 長 沢田 光広
 幹 事 菊池 要悦
 会計監査員 巽岩 哲彦
 【組織内関係の任務分担】
 (組織検討委員会委員)
 佐々木政志
 菊池 要悦
 及川 孝
 横内 俊博

【盛岡国労会館、相互援護会関係の任務分担】
 (国労会館盛岡地方部)
 地方部長 斎藤 庄司
 事務長 佐々木 力
 運営委員 沢田 光広
 運営委員 菊池 要悦
 (相互援護会)
 理事長 沢田 光広
 事務長 菊池 要悦
 理事 佐々木政志
 ※共闘関係は紙面上割愛